

【実践報告】

「教職実践演習（幼稚園）」の報告

広島文教大学教育学部教育学科

教授 田 中 崇 教

はじめに

本稿は、広島文教大学教育学部教育学科初等教育専攻幼児教育コース（以下、本コース）における2024（令和6）年度「教職実践演習（幼・小）（以下、本科目）」の指導内容を整理し省察することによって、更なる授業（教授方法）改善につなげる目的をもつ。本科目は、教育学部初等教育専攻幼児教育コースの2024年度4年次生（45名）を対象に、教員養成・保育士養成課程の履修全体を通じて「教員として必要な資質能力の確実な確認」（文部科学省中央教育審議会「今後の教員養成・免許制度の在り方について（答申）」2006）を目的とした。付記すれば2024年度も幼児教育コース4年次に在籍する全ての学生（以下、履修者）である。本科目で設定した資質能力は、この中央教育審議会（2006）に準え、「使命感・責任感・教育的愛情」、「社会性や対人関係能力」「幼児・保護者理解ならびに学級経営」、「保育指導力」とした。毎年度、本科目主担当教員（筆者）は「学生の確かな成長を実現するための効率的効果的な指導」に基づく授業内容の構成について、前年度までの省察及び当該年度受講生の状況を踏まえながら関係教員等（主として幼児教育コース所属教員）と協議を重ねてきた。

2024年度に注力した取組は、本科目の履修条件にあたる実習諸科目との連携ないし本科目に連なる系統的指導体制の確立であった。詳細は後述するが、実習諸科目での学びの利活用を今年度は15回の授業のテーマとした。

I 授業計画と実施内容

15回の授業計画を次のように構成し、全て実施した。

- | | |
|-----|--|
| 第1回 | オリエンテーションとこれまでの学びの振り返り、学修計画をたてる
授業日程・内容、教職履修カルテを確認するとともに、学修の見通しをもつ。 |
| 第2回 | 実習を総括的に振り返る—今後の取組に関する演習
教育実習ならびに保育実習を総括的に振り返り、専門職保育者として成長・向上してゆくための自己の特徴と課題を確認する。 |
| 第3回 | 指導計画案・実習記録に基づく保育実践を深める①—グループ討議
ICT機器を積極的に活動しながら、保育実習や教育実習で作成・実践した指導計画案（指導案）や実習記録を事例に、保育者（学生）の行為に潜んでいた意図や思いをグループで協議し、検討する。 |
| 第4回 | 子育て支援（保育の対象理解としての保護者）の理解を深める
子育て中の母親を招へいし、妊娠出産から育児に至るまでの親としての思いなどを理解するとともに、親（非支援者）の側に寄り添った支援について検討する。 |
| 第5回 | 幼児教育・保育学研究に関する最新の知見を理解する
研究会（広島文教大学教育学会）に参加し、幼児教育・保育に関する理論研究・実践研究に関する知見を得る。この機会を通じて、幼児教育・保育の問題に加え、現代社会にある問題に関心を向ける。 |

- 第6回 研究会（広島文教大学教育学会）に参加し、（一般）教育学に関する理論研究・実践研究に関する知見を得る。この機会を通じて、教育学や現代社会にある教育（教員・保育者養成を含む）問題に関心を向ける。
- 第7回 広島県における乳幼児期の教育（子育て支援）施策を理解する—保育・幼児教育の行政理解
広島県教育委員会事務局乳幼児教育支援センターからケスト・スピーカーを招へいし、広島県の取組「5つの力の基づく『遊び学び育つひろしまっ子！』推進プラン」のねらいについて理解するとともに、実際の保育・幼児教育現場での事例に基づいた演習（ロールプレイを含む）を行い、幼児教育・保育についての理解を深める。
- 第8回 子育て支援（保護者支援）に関するフィールドワークを行う
地域子育て支援の実践現場（すずらんひろば高陽）に赴き、保育実践を行いながら、子育て支援に関する実践的知見を深める。
- 第9回 指導計画案・実習記録に基づく保育実践を深める②—全体討議
ICT機器を積極的に活用しながら、グループで話し合ったことを全体会で発表し、他のグループや参加教員から質問・助言を受ける（全体討議）。
- 第10回 指導計画案・実習記録に基づく保育実践を深める③—グループでの振り返り・討議
全体討議終了後、全体討議にて受けた質問やその応答内容に加え、これらへの応答を行った中で気がついたことや考えたことについて再びグループで話し合い、テーマに深める。また、全体討議の運営及び必要な機材準備などの役割を担う。
- 第11回 特別な支援を要する乳幼児（保護者）の支援を理解する
特別支援教育、障害児保育に関する基本事項を確認するとともに、近年幼児教育分野で注目される「ちょっと気になる子ども」を検討事例に、保育者としての見方・関わり方について討議・検討する（ロールプレイを含む）。
- 第12回 広島県における「小学校との連携」を事例に接続期教育のあり方について深める
広島県教育委員会事務局乳幼児教育支援センターから指導助言者を招へいし、接続期教育に関する基本事項を整理するとともに、広島県内の実践を事例とした演習を通じて、「小学校との連携」に関する理解を深める。
- 第13回 保育の内容・方法を深める—「子どもと保育内容（表現）」をテーマとして
ICT機器を積極的に活用しながら、専門職保育者の資質として実践上で重視されるテーマについて、これまでの学びを振り返る（実地調査を含む）と同時に討議等を通して保育内容・方法について、保育内容表現を事例に発展的・総括的に理解する。
- 第14回 保育実践の事例分析を通じて保育の対象理解を深める—「幼児の理解」をテーマとして
実地調査を行った経験や記録に基づき、ICT機器を積極的に活動しながら、専門職保育者の資質として実践上で重視されるテーマについて、これまでの学びを振り返ると同時に、討議等を通して幼児の捉え方やかわり方（声の掛け方）について発展的・総括的に理解する。
- 第15回 保育・幼児教育（子育て支援を含む）をめぐる今後の動向を踏まえながら4年間の学びを総括する
ICT機器を積極的に活用しながら、研究機関や行政・保育現場で取り組まれている現状や課題等を整理し、専門職保育者として保育・子育て支援にどのように向き合うかについて討議・検討する。また、保育・幼児教育を学修した4年間の振り返り、自己の成長・向上、将来への展望ならびに課題について教育学科のディプロマ・ポリシーに準え、検討する。

加えて、授業時間外の学修として、幼稚園あるいは保育所等児童福祉施設での実地体験（調査を含む）を合計30時間（開始前に行う準備及び終了後に行う調査記録の作成・提出を含む）にわたって取り組んだ。全ての教育・保育実習を終えた履修者は、「子ども理解」、「保育業務理解」、「園環境等理解」といった共通テーマに基づき、それぞれに細密な調査テーマを設定する。事前に過去の実習を振り返りながらテーマを設定することによって、履修者は保育補助ボランティア者としておよそ終日園内で過ごす際の調査の（意識して観察する）観点を明確にしておくことができる。

履修者は、実地体験を実習時の補完にとどまらせない。実地体験園を主として就職内定（希望）園として設定しているため、園の雰囲気や業務の流れなどを近い将来の自身の立ち位置を確認する機会として役立てている。

Ⅱ 2024年度における指導上の重点事項と実施後の省察

1. 「小学校との連携」理解の強化

2024年度において本コースは、教員の異動が行われた。このことに伴い、「特別支援教育・障害児保育」の分野に関する授業回を科目担当専任教員が担うことになった。そこで、以前から重点化が課題であった「小学校との連携」、とりわけ実践面での理解の補完をねらった講座を設定した。確かに、教育学科には「学校間連携教育」（講義）が選択科目としてある。むしろ、この科目及び実習科目を幼児教育、とりわけ現在の広島で実際に取り組まれている実態を把握することは、教育・保育現場の理解の深化につながるだろう。

そこで、本コースの専任教員よりも有意義なゲスト・スピーカーに講話を頂き、履修生のみならず専任教員も学ぶ機会を設定した取組が、広島県教員委員会事務局学びの変革部乳幼児教育支援センターからの招へいである。以前から講話を頂いてきた「乳幼児期の教育（子育て支援）施策を理解」を田島美帆主査から、新たに設定した「小学校との連携」を山口洋平指導主事から講話いただいた。とりわけ、山口指導主事の講話は、小学校教員の視点から幼児教育・保育の理解や今後の示唆であったため、幼児教育の視点とは異なり、非常に興味深く、履修者のみならず本コース専任教員からも質問などが相次いだ。この機会を経て、現在の実践における「幼児教育・保育」とは異なる視点は重要といえる。次年度も継続していく予定である。

2. 教育実習・保育実習での実習園との連携強化に基づく学びの深化—卒業生との連携（1）

学外の保育・幼児教育の研究団体主催の研修会への参加や、保育・幼児教育学研究者による講話会を催し、最新の研究に関する知見を得る機会と位置付けている。本コースは2022年度から、保育実習や教育実習を行う実習協力園での実践研究について学ぶ機会を積極的に設けることにしている。この方針の意図は、前年度以前の報告にて既に記載してある。ゆえに簡潔に言えば、実習園・施設の実践理念などの理解を深めることができる点であるとともに、園理解を行う視点の確立の際に参考になる点である。

今年度は学校法人明星学院認定こども園二葉学園（教育実習Ⅱ実習協力園）の長田碧保育教育士（2019（平成31）年度卒業生）に「保育に携わる仲間へ」と題し、講話を頂いた。在学時の思い出や取組、就職後から現在に至るまでの保育者として心がけている姿勢、実習生かつ保育者の後輩になる履修者らへのエールなど卒業生かつ実習園教諭から園での実践について解説を受けることによって、実習園（様々な園）理解の促進につなげることができた。また、当分科会には二葉学園の片岡理絵子主任も参加していただいた。長田保育教育士や本コース出身職員、これまでの実習生を通じて想起される本コースの実習指導の特徴や履修生への卒業後に向けたエールなどを短い時間ながらも片岡主任からお話しいただけた。

3. 現任保育者が子育て支援・保育職を伝えることの意義—卒業生との連携（2）

これは、本コースにおいて2016年度から本科目に組み入れている。保育職に従事しながら子育てを行っている幼児教育コース卒業生をゲスト・スピーカーとして招へいし、自身の子育てや保育職に関するいくつかのテーマについて語る機会を設定している。今年度の登壇者は、サムエル信愛こどもの園上野瑤保育士（2014（平成26）年度卒業生）であった。

在学時の思い出や取組、入職時の心境や子育てと勤務の両立に勤しむ現況についてお話しいただいた。当園は長らく本コースの実習園として受け入れていただいているため、学生側が抱く実習の緊張感を考慮しながらも、受け入れ園側の思いについて語っていただいた。まさに、履修生に寄り添った内容であった。

Ⅲ おわりに—

以上、今年度も本コース専任教員から多彩な演習を通じて、これまでの実習の補完と幼稚園教諭免許・保育士資格取得者としての学びの深化を目指した。履修学生が専任教員外の方々と対面で関わる機会を増やすことで意味ある学修につなぐことができた。

他方、次年度の授業改善に向けた課題として、まずは教育実習、保育実習、幼児教育の体験活動、幼児の理解といった関連する演習科目・実習科目との指導内容・用語等の統一化がある。下学年次からの系統的かつ連続的な指導を行い、質の高い保育者養成の総括としての地位を本科目は築いていく。さらには、新カリキュラム設定から5年目を終えるにあたって、こうした本コースの指導がいかなる特徴を有するのか、特に実習園（就職園）からどのように評価されているのか自己点検する必要がある。

謝辞：本科目を実施するにあたり、多大なるご支援ご尽力を賜った広島県教育委員会事務局乳幼児教育支援センター田島 美帆主査、同山口 洋平指導主事、幼児教育コース卒業生の長田 碧保育教育士（二葉学園）、上野 瑤保育士（サムエル信愛こどもの園）、実地調査受け入れ園・施設、常設オープンスペースすずらんひろば高陽関係各位にお礼申し上げます。